

草軽電鉄跡をドライブで探訪しませんか

(三原～北軽井沢コース)



写真：現在の北軽井沢駅舎とデキ12のレプリカ

この資料の内容

1. はじめに
2. 草軽電鉄はどんな鉄道
3. ドライブ探訪について
4. 草軽電鉄ドライブ探訪マップ
5. 三原～北軽井沢コースの全体図
6. おわりに

1. はじめに

首都圏に比較的近く、自然豊かな浅間山麓にはさまざまな魅力にあふれた楽しみがあります。都会の喧騒から離れて自然の中で過ごす人間性回復時間を求めて浅間高原を訪れる皆様も多いのではないのでしょうか。

高速道路や鉄道・バス路線が発達した今日、観光地への旅行はそれほど難しいことはありませんが、交通手段の少なかった大正から昭和初期は浅間高原を訪問することも、浅間高原に暮らすことも大変な時代でした。

そのような時代に避暑地や温泉地として発展をしていた軽井沢と草津を約3時間半で結ぶ総延長55.5kmに及ぶ草軽電気鉄道(草軽電鉄)という名の鉄道がありました。

草軽電鉄は浅間高原、嬬恋、草津の観光と地域産業の発展に大きく貢献をしましたが、国鉄長野原線の開通とバス路線網の整備による交通手段の複数化、度重なる路線の台風被害が重なり昭和35年に惜しまれながら廃線となりました。

しかし、デキ12形をはじめとする草軽電鉄の愛くるしい列車と浅間高原を走る高原鉄道の風景は忘れることのできない地域の宝物と言えます。

草軽電鉄が廃線となって既に60余年が経過しましたが、この鉄道の思い出を後世に残すために浅間山ジオパーク推進協議会の取り組みの一つとして『車で手軽に草軽電鉄跡を探訪するためのコースマップ』を用意いたしました。

コースは草津コース(上州三原→草津温泉)、北軽井沢コース(上州三原→北軽井沢)、軽井沢コース(北軽井沢→新軽井沢)の3コースとなっております。各コースともあなたの車でドライブ探訪することができます。(所要時間:1コース約3時間)

また浅間山北麓ジオパークでは草軽電鉄跡を辿るガイドツアーも企画しておりますのでご興味のある方は浅間山ジオパーク推進協議会までお問合せ下さい。

2. 草軽電鉄はどんな鉄道

草軽電鉄は1910年(明治43年)に軌間762mmの軽便軌条として認可を受け、1913年(大正2年)に軽便鉄道として着工しました。1915年に新軽井沢-小瀬温泉間が開業、その後1917年に吾妻駅まで、さらに1919年に嬬恋駅まで路線が延長されました。1924年には新軽井沢-嬬恋間が電化され、1926年には新軽井沢-草津温泉の全線が電化区間として開業となりました。

草軽電鉄の動力車は当初ドイツ製の蒸気機関車でしたが1924年の電化に伴って米国ジェフリー社の鉱山用電気機関車を改造したデキ12形が導入され、以降この車両が草軽電鉄の顔となりました。デキ12形は最大出力32kW(35馬力)の電動機2基を搭載した電気機関車で、ちょうど現在の小型自動車程度の大きさで出力でした。この小型の電気機関車で客車と貨物車を牽引するために車体重量を増す厚い鋼条を取付け、カーブでの脱線防止目的で車両前後に導従輪を付けるなどの改造をしていましたが、列車

編成の登坂能力は40パーミル(1000mで40m登坂)というものでした。

草軽電鉄は高低差の多い山岳鉄道ですが、建設コスト低減のためにトンネルを作らず、切通や土塁などを用い機関車の牽引能力を考慮した緩やかな登坂となるように等高線を緩く越えながら高度を稼いでいく経路を採用していました。そのために路線の途中には複数のスイッチバックや沢沿いの急カーブ、大回り経路など草軽電鉄独特の風景があり、それも魅力となっていました。

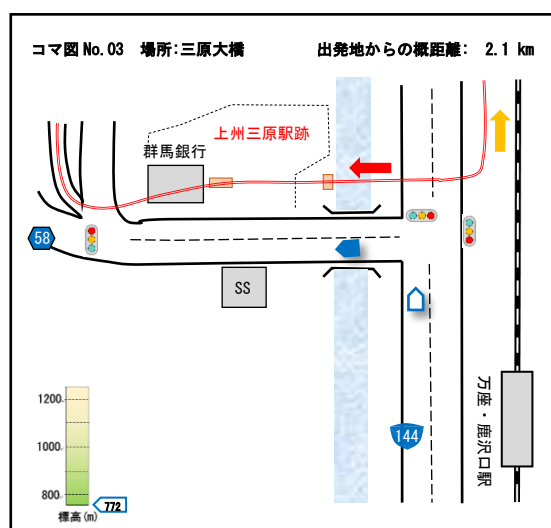
3. ドライブ探訪について

この資料で提供するドライブ探訪は草軽電鉄の経路を営業当時の道床や構築物の遺構を辿りながら営業当時の雰囲気を感じていただく企画です。

本来ならば全道床跡を歩いて探訪する価値のある草軽電鉄ですが、総延長が55.5kmに及ぶ距離を踏破することは難しいので、まずは3つに分けたいずれかのコースを車でドライブしていただくことにしました。

用意したドライブマップには探訪の要点となる地点や間違いやすい地点が示してあり、草軽電鉄に関する説明を確認しながら道床跡を探訪できます。

右の地図は国道144号の三原大橋交差点ですが、車は△の位置から交差点に入り▲の方向に左折することを示しています。図中の赤色の二重線——が草軽電鉄の道床跡で←は草津温泉方向、→は新軽井沢方向を示しています。更に図中の標高指示は△の位置のものです。



地図上のその他の記号は概ね国土地理院の地図記号に準じています。

ドライルートの設定ではできる限り草軽電鉄が営業していた当時の道床走行をめざした調査を行いました。廃線後60年も経っていますので現在では残っていない場所や危険な場所、民間土地になっている場所など道床に入れられない場所も多くありました。

ドライブマップに記載したルートは全て公道(国道、県道、市町村道、一般農道)走行としていますので記載ルートを外れた道路の走行は避けて下さい。また農道は大型トラクターなどの農作業車優先道路ですので一層注意したドライブをお願いします。

4. 草軽電鉄ドライブ探訪マップ

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース

資料番号： 1

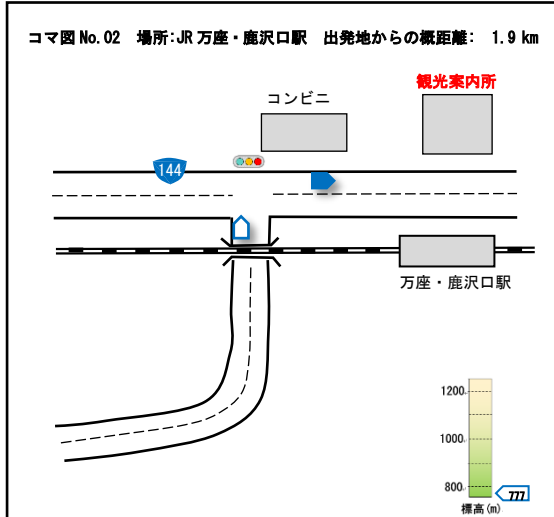


さて、草軽電鉄を車で探訪する地図(北軽井沢コース)を入手しました。スタート地点は浅間山北麓ジオパークの地域交流センターです。

まずは地図の簡単な見方を確認しましょう。

コマ図 No. 01 は交流センターの駐車場から道路に出るところで、進路は🏠から🏠の方向に進みます。(この場合は右折です)

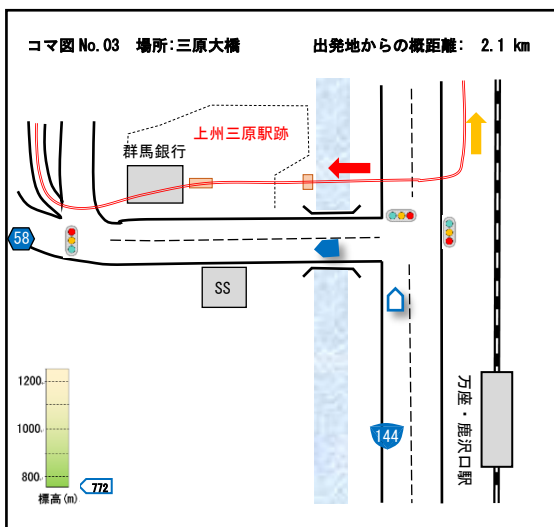
コマ図の右上に出発地からの距離を示しましたのでオドメーター(距離計)をリセットして安全運転で出発しましょう。



交流センターから 1.9km 走行しました。ここでオドメーターを確認してください。地図に示したオドメーターの距離は車によっては最大 10%程度の差があります。

JR 吾妻線のガードをくぐると国道 144 号線に突き当たりますので右折するとすぐに万座・鹿沢口駅があります。

駅前の観光案内所でこの資料を入手された方はコマ図 No. 02 からスタートです。



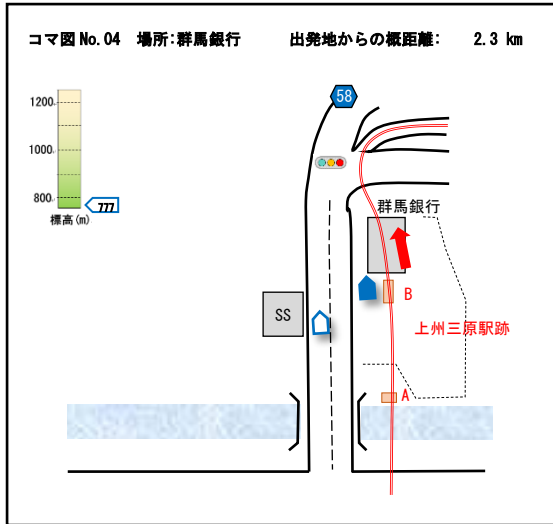
万座・鹿沢口駅を過ぎて 200m のところに三原大橋があります。この交差点を左折して吾妻川を渡ります。

地図に示した赤い線は実際には見当たりませんが、これが昭和 35 年まで走っていた草軽電鉄の線路の位置です。

このドライブマップでは ← が草津温泉行、→ が新軽井沢行の方向を表すことにします。三原大橋を渡ると間もなく上州三原駅跡に到着します。ここの標高は 772m です。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

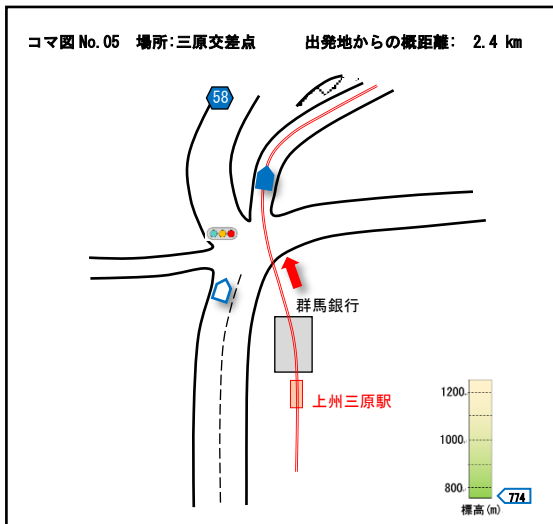
コース：北軽井沢コース
資料番号： 2



上州三原駅は現在の群馬銀行付近の場所にありました。

群馬銀行裏の広い空き地が上州三原駅構内で、吾妻川に面したAの場所には草軽電鉄の吾妻川橋梁の橋脚、Bの場所には駅ホームの石積みが残っています。

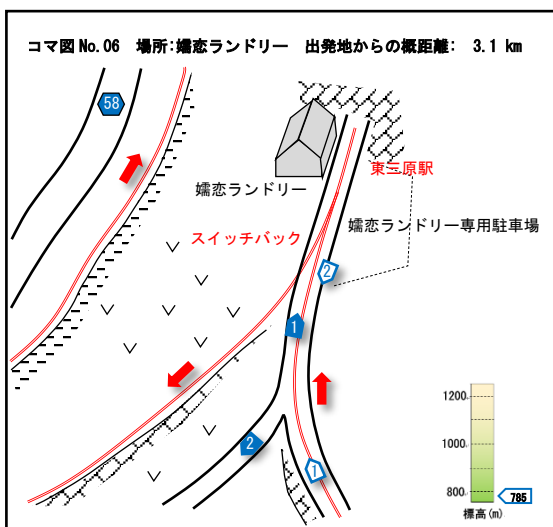
上州三原駅ホームを出た草津温泉行の草軽電鉄は現在の群馬銀行の建物を通り抜けて東三原に向かいました。



群馬銀行のすぐ目の前が三原交差点です。ここは西吾妻地域で最も早く信号機が導入された交差点です。

草軽電鉄は県道 58 号線に沿って草津温泉に向かうのですが、この信号直後の県道 58 号線は急坂になっていて 40 パーミル(1000m 進んで 40m 登る坂)程度が限界の草軽電鉄では登坂できないために真ん中の狭い道を東三原に向けて徐々に登って行きました。

ここから草軽電鉄の道床走行となります。



三原交差点から 700m で道路の行き止まりに着きます。この付近が東三原駅跡です。

途中道路左側の精緻な石積みの壁は草軽電鉄が積んだものです。

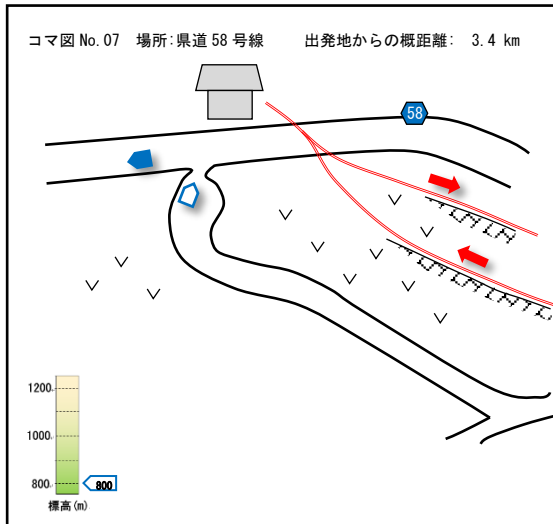
道路はここで行き止まりとなり、草軽電鉄は反対方向にスイッチバックを行い、県道 58 号線をまたぐ 2 回目のスイッチバックに向けて更に登坂していきます。

それでは U ターンしてスイッチバックの雰囲気を楽しみましょう。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース

資料番号： 3

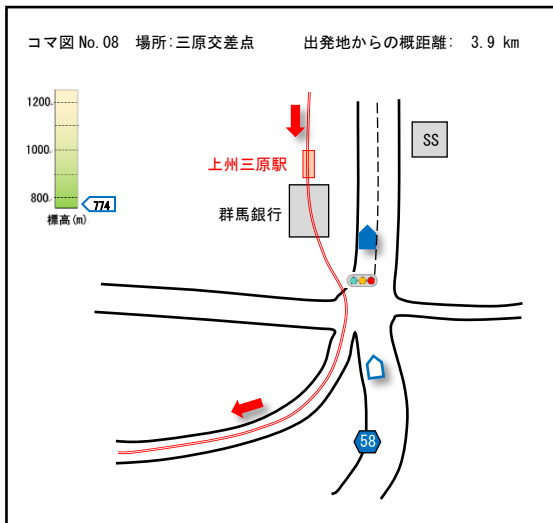


東三原駅跡をUターンしてそのすぐ先にある分岐を右に侵入します。

実はこの道、東三原のスイッチバックのすぐ隣を平行して走っています。車の右手奥に草軽電鉄の道床を支える石積みを見ることができます。

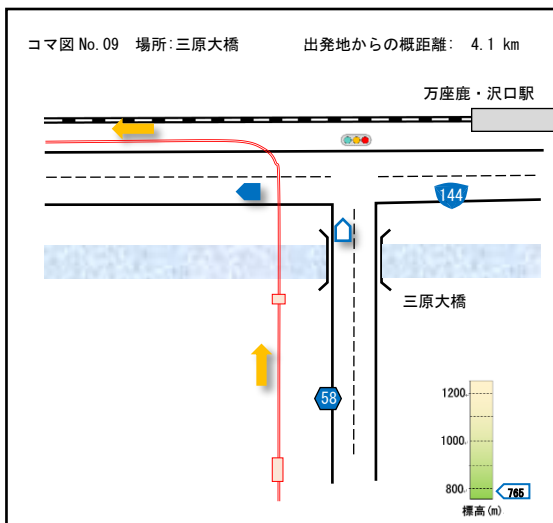
県道 58 号線に合流する先に家がありますが、この家の庭で草軽電鉄は再びスイッチバックをして草津温泉に向かいます。

道路もスイッチバックの雰囲気ですね。



車は県道 58 号線を三原交差点まで戻ってきましたが、2 回目のスイッチバック地点からここまでの急坂を草軽電鉄が登れそうもないことを実感していただけたことでしょう。(同様に急坂の下りも危険と感じたはずです)

車は上州三原駅のあった群馬銀行を左に見ながら三原大橋に向かいます。



三原大橋の先の国道 144 号を左折します。正面は JR 吾妻線の高架となっていて万座・鹿沢口駅のホームがあります。

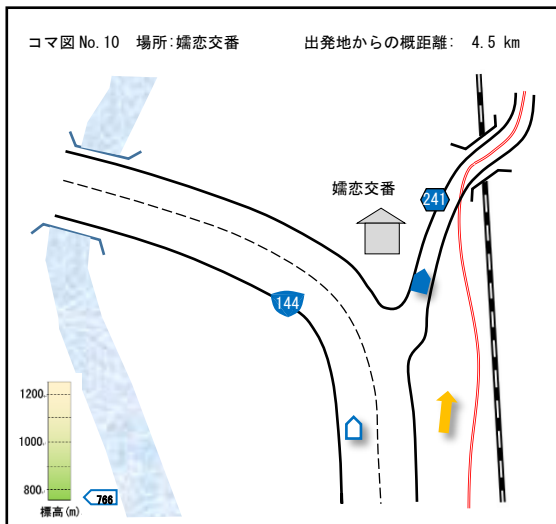
草軽電鉄が走っていたころは、JR 吾妻線はまだありませんでした。

三原大橋の左手を平行して走っていた『新軽井沢行』草軽電鉄も左折します。

運よく吾妻川の水かさが少なければ川の中に草軽電鉄の倒れた橋脚が見られます。

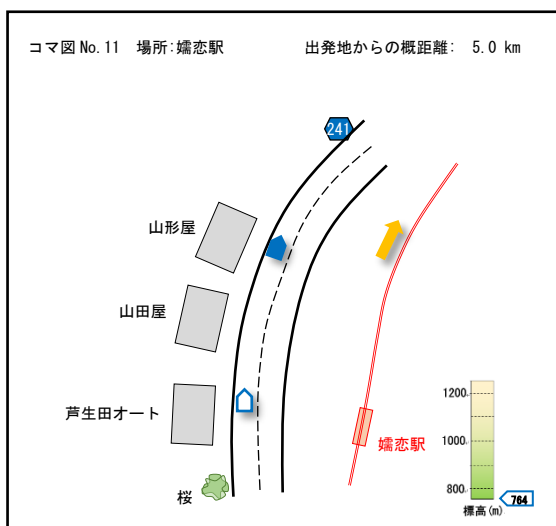
草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース
資料番号： 4



国道 144 号を三原大橋から 400m 程走ると孀恋交番の分岐点があり、ここを県道 241 号方向に右折します。

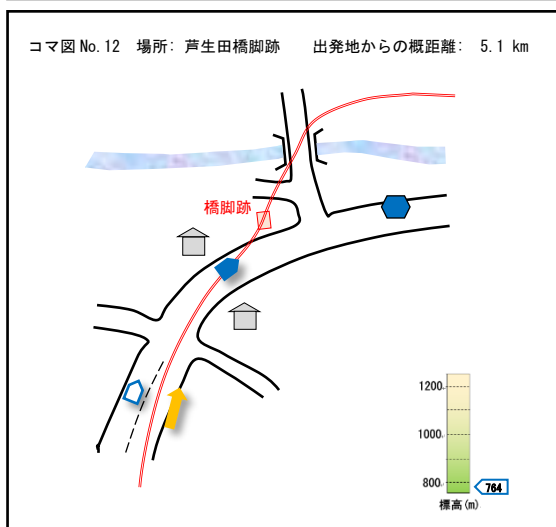
右折をすると車はすぐに JR 吾妻線の跨線橋を渡ります。草軽電鉄は跨線橋付近を走っていました。



孀恋交番前から 500m 程走ったところに山田屋と山形屋という 2 軒の温泉旅館があります。

この旅館の前、道路の右手に草軽電鉄の孀恋駅がありました。

山田屋旅館手前の芦生田オートの駐車場に桜の木がありますが、この木も旧孀恋駅の構内で、当時は温泉のお客さんの利用が多い駅であったようです。



山形屋旅館の先の右カーブを曲がり切ったところに草軽電鉄の小熊沢の橋脚跡が残っています。

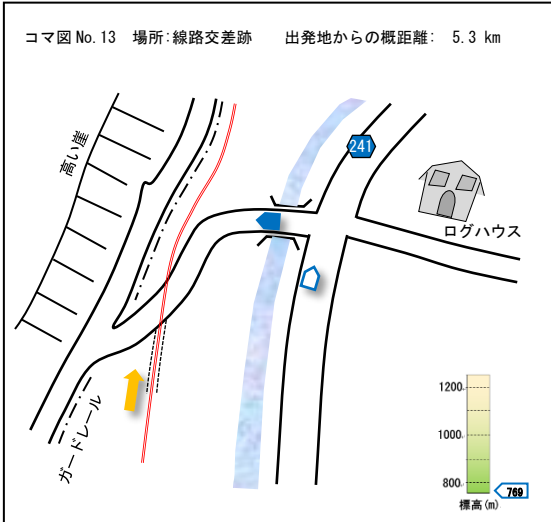
(橋脚の付近には駐車スペースがあります)

孀恋駅を出た草軽電鉄は道路の右の田んぼの脇を通ってこの橋脚に掛かった鉄橋で左手の川を渡り、川沿いを上流方向に登って行きました。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース

資料番号： 5

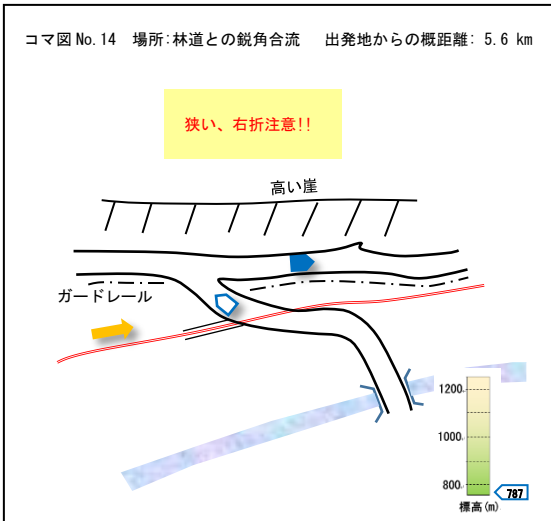


芦生田の橋脚跡から 200m 程のところにお交差点があります。

交差点右手のログハウスが目印です。

この交差点を左折して坂を登って行くと途中で左手から出てくる細い道があります。新軽井沢行の草軽電鉄はこの道を左手から右手に走っていました。

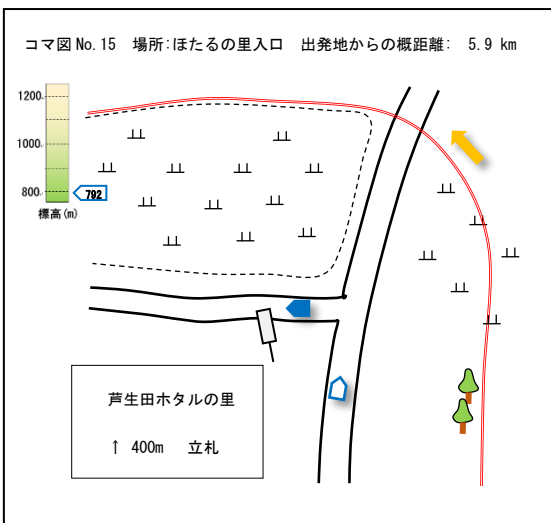
道路の坂に対して草軽電鉄ができる限り緩い坂になるようなコースを走っていたことが判ります。



草軽電鉄の道床を超えて坂を登るとT字路に出会います。

このT字路を右折することになりますが、道幅が狭く、急登なので注意しながら切り返しをする必要があります。

この道は右手がガードレール、左手は高い崖なので十分注意をして走行してください。



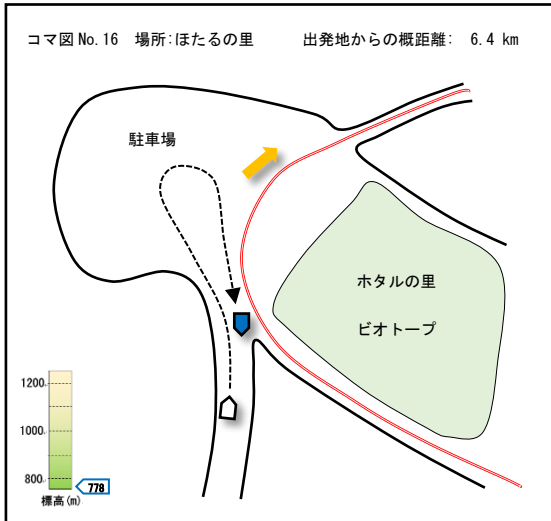
T字路から 200m ほど登ると田んぼの広がる場所に出ます。更に 100m 程のところに『芦生田ホタルの里 ↑ 400m』の立札の左折路があります。

草軽電鉄は右手の田んぼ奥から大きく左カーブをして正面の田んぼと林の間の道をほたるの里の方向に向かっていました。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

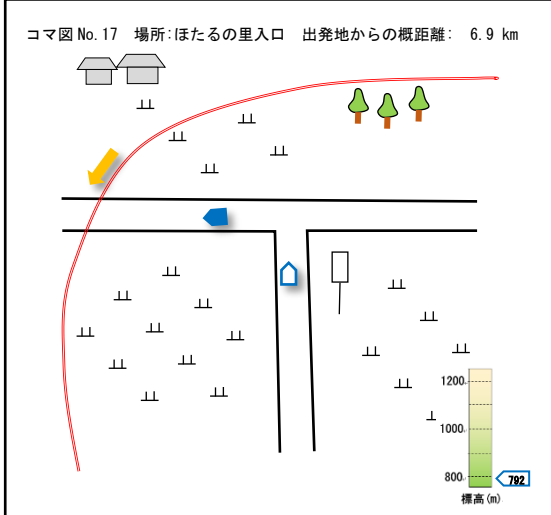
コース：北軽井沢コース

資料番号： 6



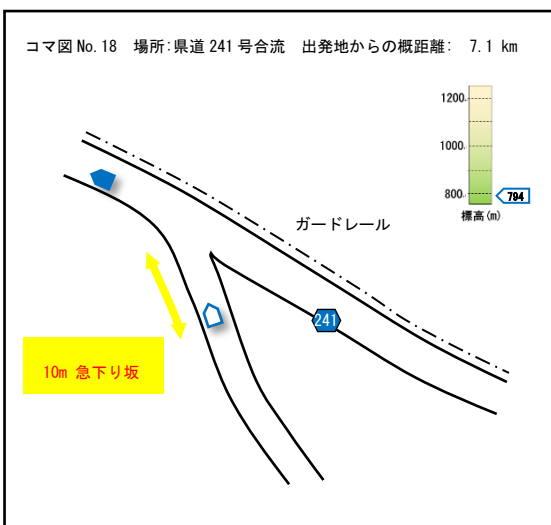
ほたるの里には駐車場とフェンスで囲まれたビオトープがあります。ほたるの季節は6月中頃から7月中頃までです。

新軽井沢行の草軽電鉄は田んぼとビオトープの間の小道をこちらに向かってきます。そしてビオトープの駐車場側を巻くようにカーブして森の小道に入って行きました。



ほたるの里から 500m ほど戻って T 字路まで来ました。右手前方田んぼの向こうに並木が見えますが、草軽電鉄はその並木に沿って登ってきました。

T 字路を左折して田んぼの途切れるあたりで草軽電鉄の道床との交差点があることが判ります。



ほたるの里の T 字路から 200m ほどで県道 241 号線に戻ります。

県道との合流点の手前 10m は急な下り坂になっています。十分に減速しながら注意して県道に出てください。

この交差点は左折します。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

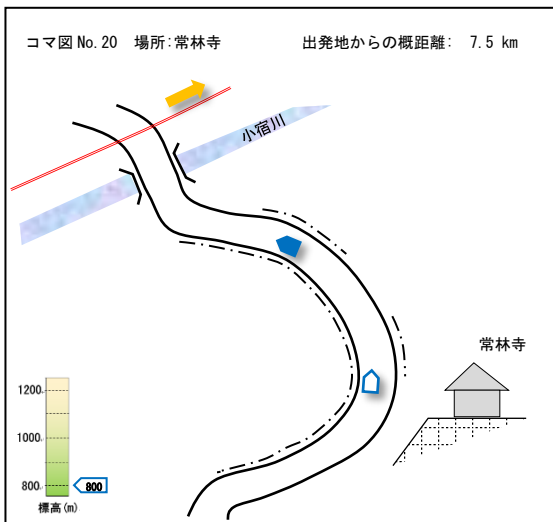
コース：北軽井沢コース

資料番号： 7



県道 241 号に出て程なく浅間サンランドの看板のある峠に出ます。峠の頂上に長野原町の標識がありますのでこの地点が嬭恋村と長野原町の境界ということになります。

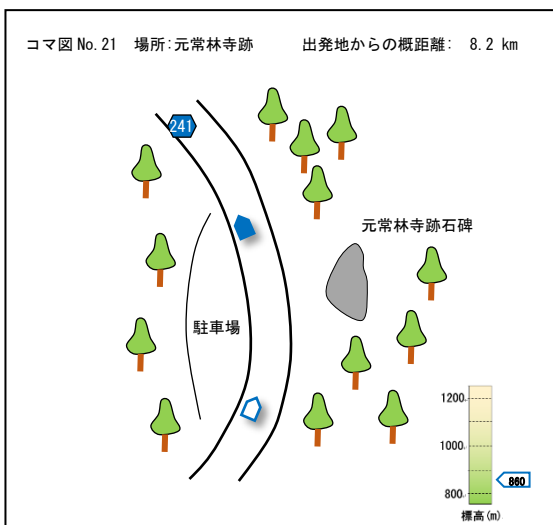
草軽電鉄はこの峠を登ることができなかつたので緩い坂道で標高を稼ぎながら迂回をしてほたるの里を通るコースで走っていたことが判ります。



嬭恋村と長野原町の境界の峠を越えると下り道になり常林寺が見えてきます。

道路は常林寺の前を大きく左にカーブして小宿川に掛かる橋を渡ります。

峠を迂回してほたるの里を通った新軽井沢行の草軽電鉄は小宿川沿いを上流方向に登って行きます。橋を渡った左手の小宿川沿いに草軽電鉄の道床と思われる平坦な草地の痕跡が続いています。



常林寺から 700m ほど県道 241 号を登ると林の中に『元常林寺跡』の石碑があります。

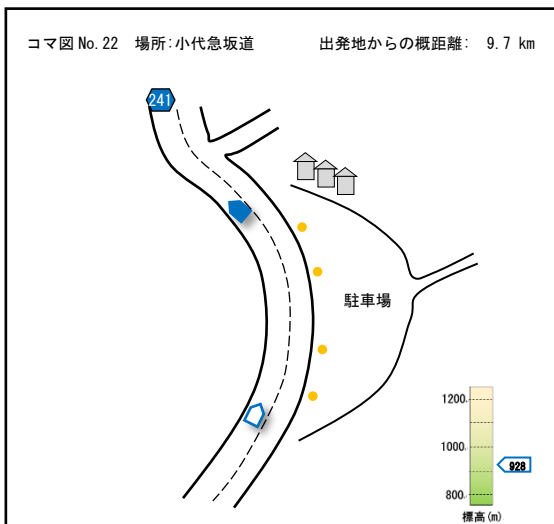
天明 3 年の浅間山大噴火と鎌原土石なだれの話は有名ですが、ここにあった常林寺も流されて現在の場所に移設されたことが判ります。

常林寺からここまでの道路も草軽電鉄の登坂能力を超える急坂でした。

草軽電鉄はこの先、吾妻駅までの区間は小宿川沿いを走行していました。

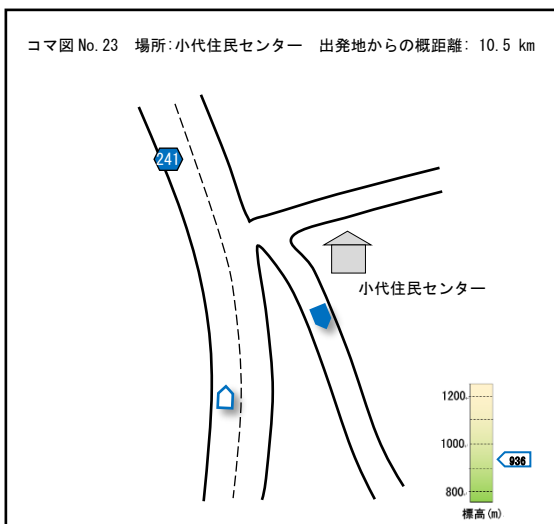
草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース
資料番号： 8



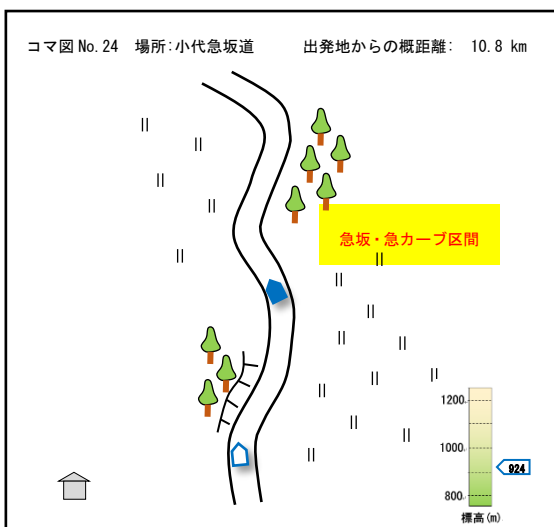
元常林寺の石碑から 1500m 車を走らせるとようやく平坦な台地に出ます。この付近は現在の小代(こよ)という地名です。

道路右脇に駐車場がありますが、草軽電鉄の小代駅はこの付近ではなく、まだ右手奥の深い小宿川の沢沿いをゆっくりと走っていました。この先、小代駅跡まで案内します。



県道 241 号を 700m ほど走ると小代住民センターの交差点です。

この交差点を右折して小代住民センター前の道を県道 241 号線の来た方向と逆の方向に向かいます。この道の先で小代駅跡と草軽電鉄の道床に出会うことができますが、小代住民センターの位置(標高 936m)に対して小代駅が小宿川の深い沢の中にあったことに驚かれるはずです。



小代住民センターから 300m 走ったところで急坂・急カーブの下り道になります。

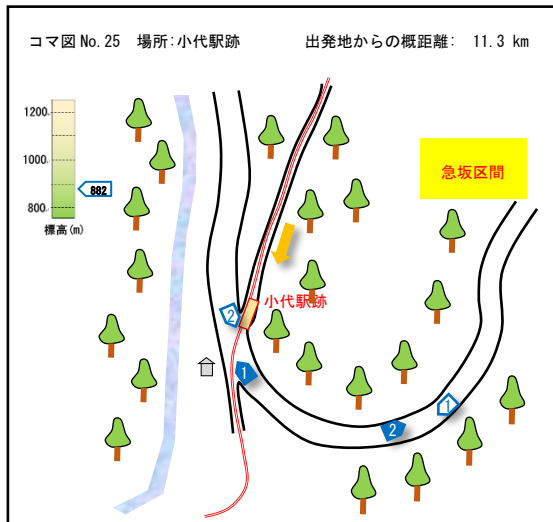
この先更に急カーブの下り坂が続きますので十分に注意して走行してください。

そして、小代駅のあった沢の深さを実感してみてください。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース

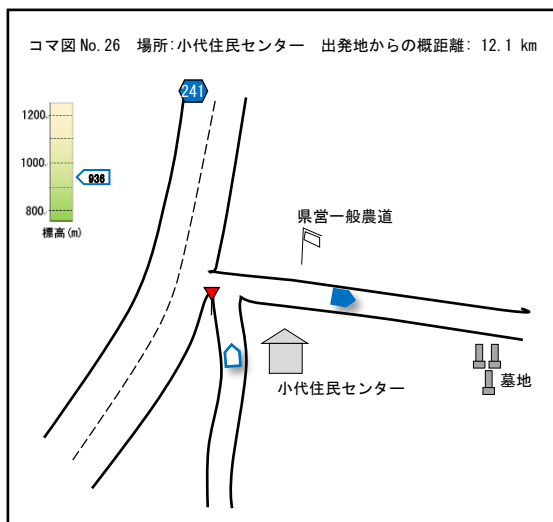
資料番号： 9



最後の急な右カーブを曲がると道路左手に沢が見えてきます。

カーブを曲がり切った地点に右の林の中に延びた細い道があります。この道の入り口付近が小代駅のあった場所で標高は882m、小代住民センターのある台地よりも50mも深い谷です。軽井沢行の草軽電鉄はこの道の奥の方からこちらに向かって走ってきます。

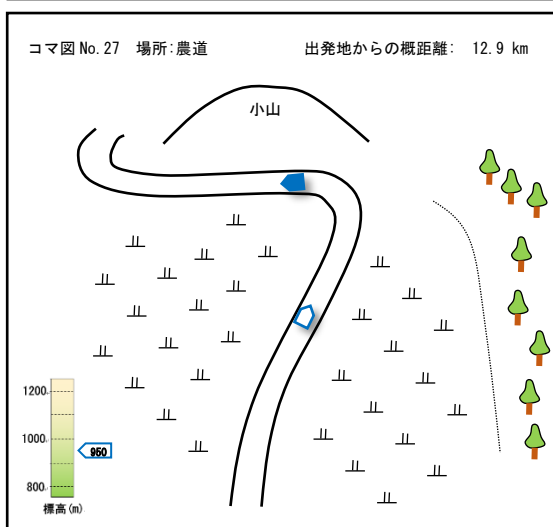
車を止める場所は少ないですが時間があれば散策したい道床跡です。



小代駅跡で車をリターンして先ほどの急坂を引き返し、小代住民センター前に出たところで県営一般農道方向に右折します。

これからしばらく農道(公道)の走行になります。

農道では農業車両が優先です。大型のトラクターなどが走りますので十分注意して走行してください。



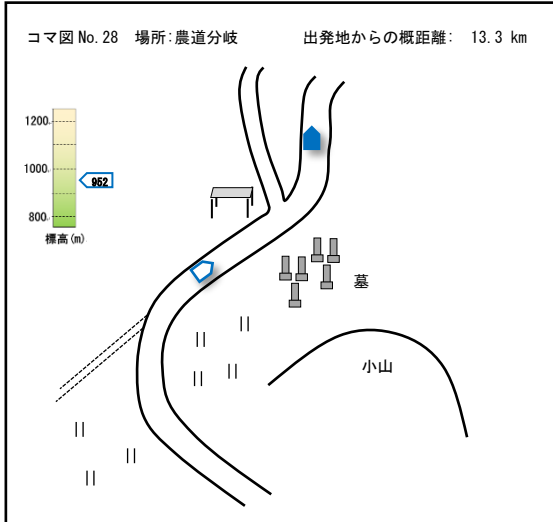
小代住民センターから800mほどの区間はキャベツ畑の中の道になります。畑の右手奥に林が続いているのが見えますが、この林の奥に先ほどの沢が流れていて、そのほとりを草軽電鉄が走っていました。

この先でもう一度沢まで降りますが、小代駅の標高差と比べて草軽電鉄はかなり登ってきたことが判るはずです。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

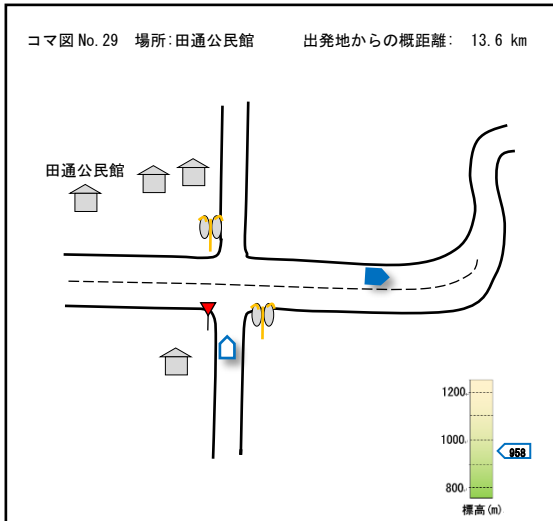
コース：北軽井沢コース

資料番号： 10



農道の右手にある小山を回るように右カーブをすると左に東屋、右に墓地のある分岐点があり道が2手に分かれます。

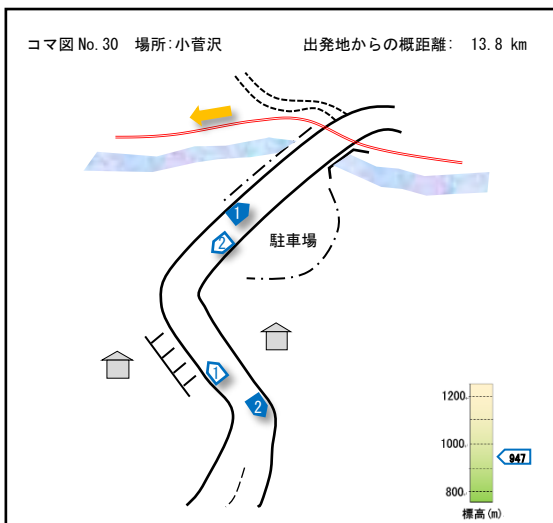
この地点は直進します。



更に農道を 300m 走行すると少し広い道の十字路に出会います。

この地点は小代住民センターから直線距離でおよそ 1200m の地点です。

この交差点を右折するとすぐに道路は沢に続く一車線の下り坂になります。



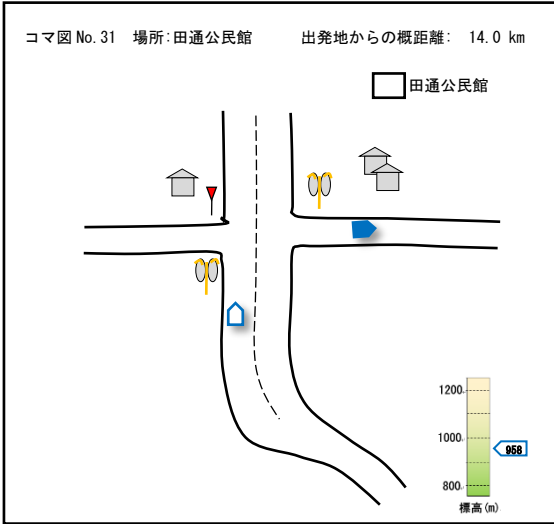
道路の下り坂は多少急ですが左右に1回ずつカーブをしたところで沢に出会います。

沢を渡る右手前に駐車スペースがありますのでここに車を入れてリターンに備えます。

沢を渡った左側に道路があり、沢と道路の間に草軽電鉄の道床と判る痕跡の道が続いています。ここの標高は 947m、小代駅からの 1500m で 65m 登ったことになります。草軽電鉄にはかなりきつい登りであったはずですが。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

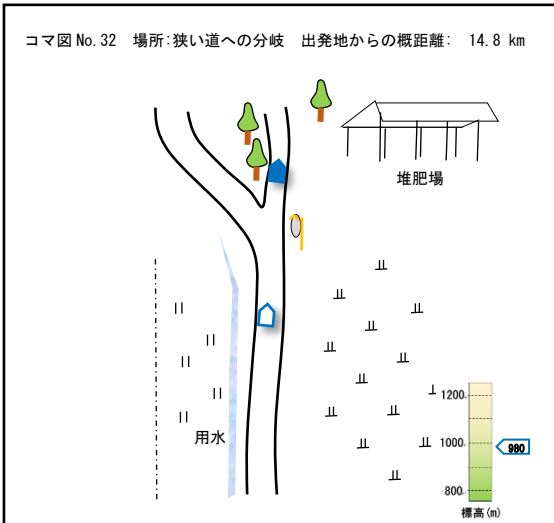
コース：北軽井沢コース
資料番号： 11



草軽電鉄の道床が走る沢から農道の交差点に戻りました。ここを右折して農道を更に北軽井沢方面に向かいます。

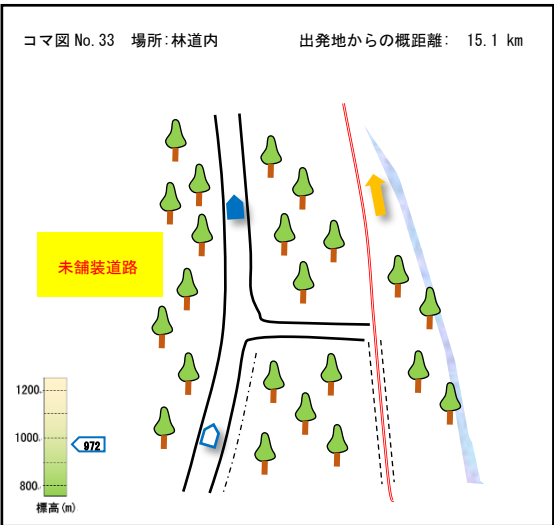
小代駅からここまでの1500mで草軽電鉄は約65m登ったということは65/1500、単純平均で43パーミルの勾配になります。

この数字はデキ12形の限界登坂能力ギリギリの値です。草軽電鉄は沢沿いをうねりながら長い距離を走ることによって勾配を緩くしていたわけです。



田通公民館から800m走行したところで農道から狭い林の中の道に入ります。前方右に堆肥置き場の屋根が見えます。

とりあえず公共道路ですが道が狭く、途中で未舗装になりますのでゆっくりと注意しながら進入してください。



林の道に入って300mの右手に狭い道があります。

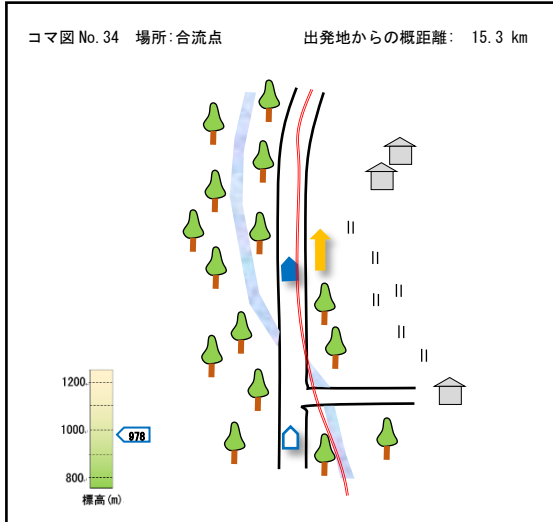
この狭い道を100mほど歩いたところに草軽電鉄の道床跡を見ることができます。

道床の高さは走行してきた道の高さと同様ですので、草軽電鉄はこのあたりでようやく浅間高原と同じ高さに達したことになります。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

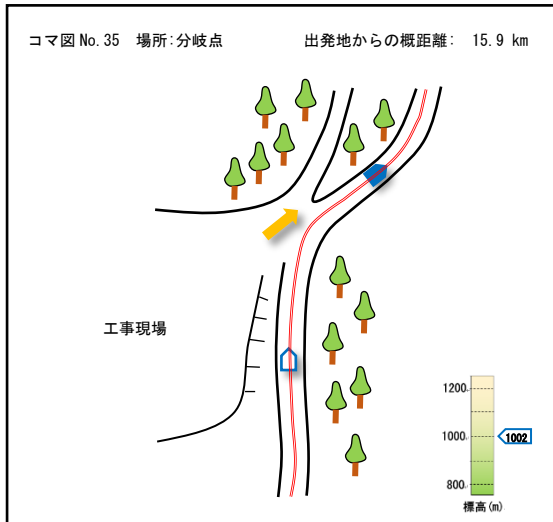
コース：北軽井沢コース

資料番号： 12



更に 200m 走行したところで右手に民家が見え、道路は堀切沢川を渡ります。川を渡ると草軽電鉄はその先ですぐに現在走行している道路と合流します。

この合流点から約 600m の区間、道路は草軽電鉄の道床跡を走ることになり、当時の雰囲気を感じることができます。



合流点から 600m 走ったところで道路は右に緩くカーブをして草軽電鉄と別れます。

草軽電鉄は吾妻駅に向かって緩い坂をさらに登って行きます。



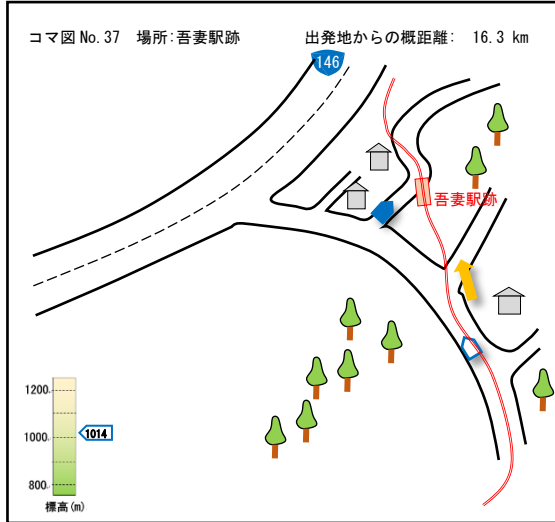
分岐点から 200m で少し広い道に出会います。この交差点を左折してすぐの道路右手林の中に錆びたバス停跡があります。

このバス停は昭和 35 年の草軽電鉄廃止に伴って代替輸送として設定された路線バスのものでした。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

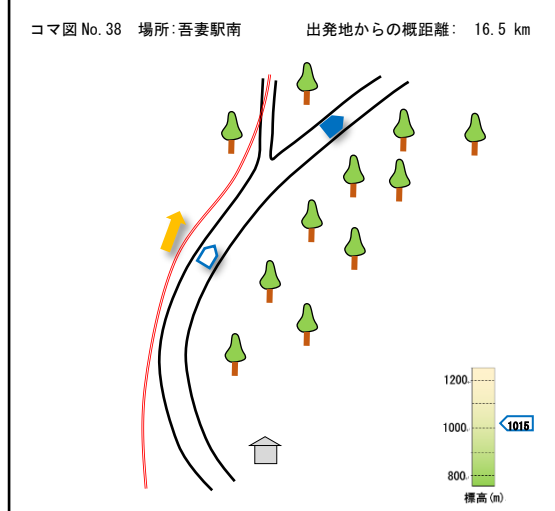
コース：北軽井沢コース

資料番号： 13



道は程なく国道 146 号との交差点に達します。国道手前の右脇に 2 本の狭い道があります。

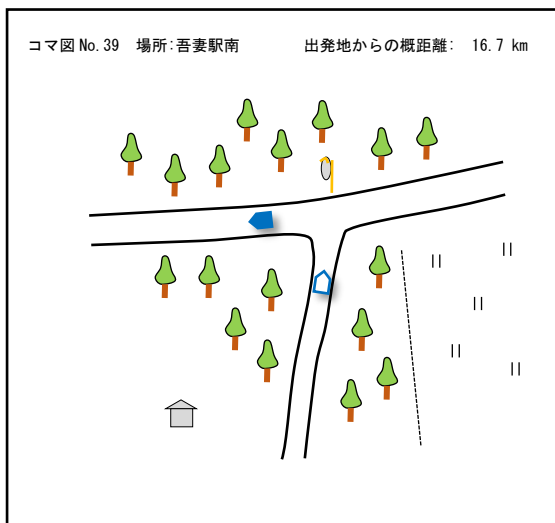
草軽電鉄は道路の右手にある民家の敷地を横切る形で斜め右方向に侵入し、間もなく吾妻駅に至りました。吾妻駅跡は狭い道路に入った付近にありました。



吾妻駅跡から 200m 走行したところの左に分岐路があります。草軽電鉄はその道の左奥を通っていきます。

この道は途中で進めなくなるので、ここは右の道を進むことにします。

この付近から先、草軽電鉄に沿って木立が並木のように連なっている様子が見られます。この光景は道路の左奥を平行して走る国道 146 号から良く判ります。



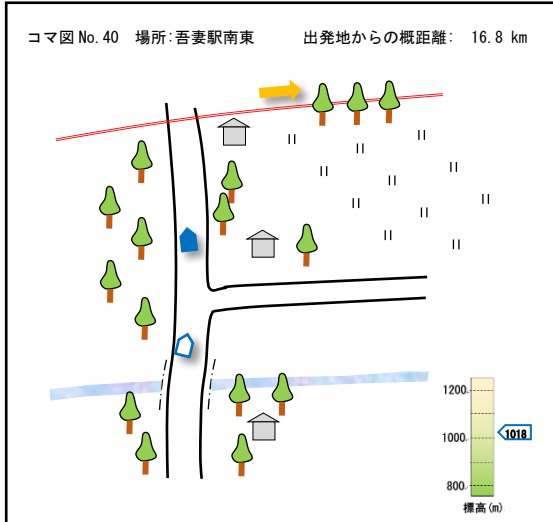
分岐点から 200m 走ったところで道路は T 字路に当たります。

この T 字路を左折して草軽電鉄の方向に向かいます。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

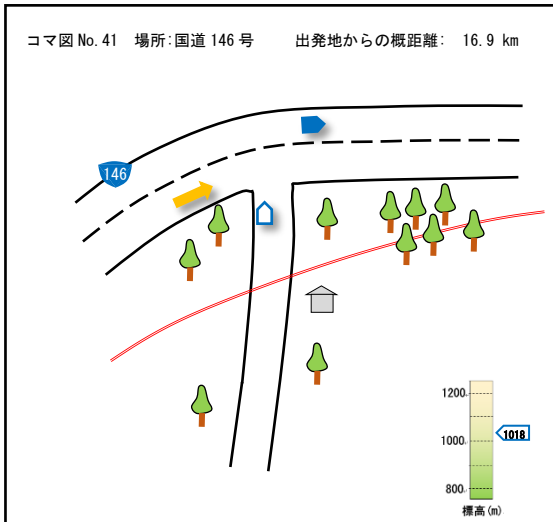
コース：北軽井沢コース

資料番号： 14



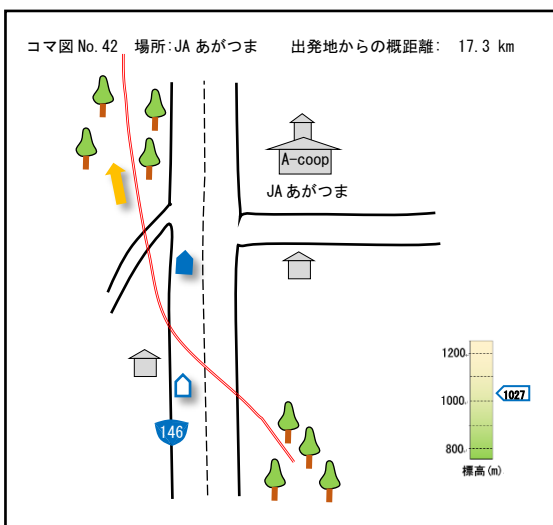
T字路から100mほど走ったところで小川を渡ります。そのすぐ先の右手に民家があり、右に道がありますがここは直進します。

草軽電鉄はその前方、酪農家の敷地内を横断していました。この部分の道床は民有地となっていて入ることができませんが、道床脇の並木が残っています。



草軽電鉄の道床跡を超えて100mのところまで国道146号に突き当たります。

この交差点で右折して国道146号に入ります。草軽電鉄は国道146号線の右手奥を走っていますが、その道床に沿って背の高い並木が断続しているので国道からその存在がよく判りません。



国道146号を400mほど走ると右手にJAあがつまの建物があります。

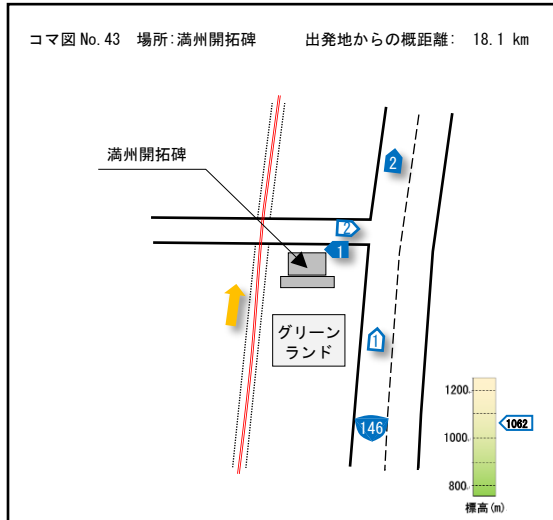
草軽電鉄はJAあがつまの100mほど手前の左手にある家の前で国道146号を横断して左手方向に移動していました。

ここから1200mの区間、草軽電鉄は国道の左手林の中を並走して走るようになります。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース

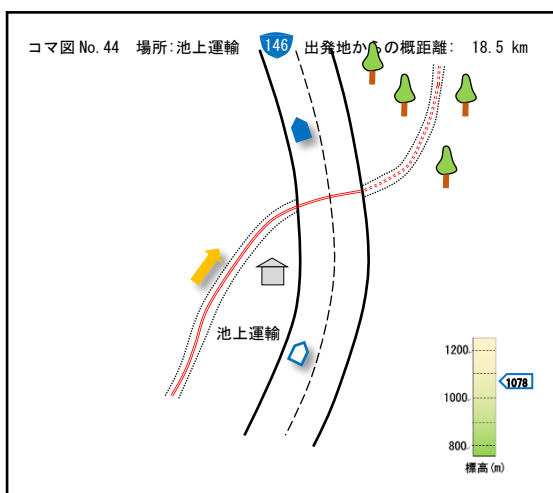
資料番号： 15



国道 146 号を JA あがつまから 800m 走行した地点の左手に道路があります。手前にグリーンランドの看板があるので判りやすいはずですが。

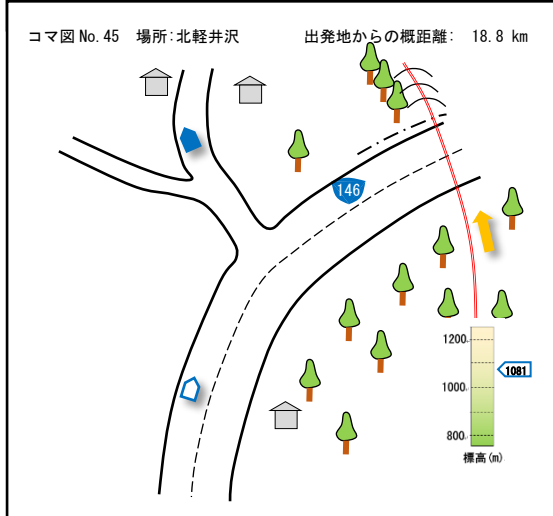
この道を左折するとすぐ左手に『満州開拓碑』があります。この石碑の前に駐車スペースがあるので車を降りることも可能です。

そして石碑のすぐ隣の道が草軽電鉄の道床でした。



満州開拓碑から 300m のところに池上運輸の営業所があり、さらに 100m 先に左手前側から国道 146 号に合流する小道があります。

この道が満州開拓碑のところから続く草軽電鉄の道床で、この地点で国道を横断していました。池上運輸からこの先までやや急な上り坂なので草軽電鉄は少し大回りをしていましたことになりします。



池上運輸から 300m のところにある分岐路を左折します。左折地点付近には駐車可能なスペースもあります。

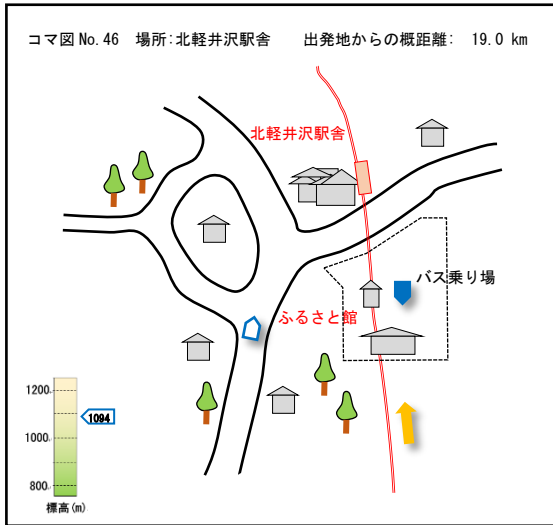
草軽電鉄は国道 146 号の 100m ほど先で再び国道を横断して北軽井沢の街の中に入ってきました。

国道の左側にはカードレールがあり、その先に草軽電鉄の土塁跡を見ることができます。

草軽電鉄ドライブ探訪マップ

コース：北軽井沢コース

資料番号： 16



国道 146 号の分岐点から 200m で寄棟造りの荘厳な雰囲気の中軽井沢駅舎の前に着きます。

北軽井沢駅舎前を右折するとすぐ右手に北軽井沢バス乗り場と北軽井沢観光協会（ふるさと館）があります。この場所には乗用車の駐車スペースが完備されていますのでそこに車を停めることにしましょう。

さて、浅間山北麓ジオパークの地域交流センターを出発して上州三原駅跡から北軽井沢駅跡まで走行距離 19km ほどの草軽電鉄ドライブ

探訪の旅『北軽井沢コース』はここで終了です。運転おつかれさまでした。

ここ北軽井沢駅舎は草軽電鉄が営業していた当時の建物です。木造建築ですが非常にモダンで重厚な建物で当時の北軽井沢が特別な場所であったことを想起することができます。

北軽井沢駅舎に隣接して草軽電鉄のホームと木製のデキ 12 形のレプリカが置かれています。

またバス乗り場に併設されている北軽井沢ふるさと館は草軽電鉄の道床上に建てられていて、外観は草軽電鉄の客車を模したものになっているところにもこだわりが感じられるでしょう。この北軽井沢ふるさと館には草軽電鉄の資料がたくさん展示されていますので一見の価値があります。

さて、草軽電鉄ドライブ探訪の旅はここで終わりではありません。この先、新軽井沢駅（現在の JR 軽井沢駅）まで続いているのですが、その路線の途中には群馬県と長野県の県境峠越えが待っています。

最大出力 37kW (35 馬力) のモーター 2 基の非力なデキ 12 形が客車と貨車を引いて県境峠越えをする様子は『草軽電鉄ドライブ探訪マップ(軽井沢コース)』で楽しんでいただくことができます。

また、上州三原駅から草津温泉駅までの草軽電鉄の奮闘についても『草軽電鉄ドライブ探訪マップ(草津コース)』で楽しんでいただくことができます。

5. 三原～北軽井沢コースの全体図



草軽電鉄ドライブ探訪(三原～北軽井沢コース)全体図

5. おわりに

草軽電鉄跡ドライブ探訪の旅、いかがだったでしょうか。

草軽電鉄は映画『カルメン故郷に帰る』に登場する爽やかな浅間高原の空気の中を走る鉄道のようなイメージですが、実際のところ、列車の登坂能力いっぱいの上り坂や下り坂が延々と続く、列車にとっては過酷な山岳鉄道であったことを実感していただけたのではないかと思います。

歴史的な遺構は注目をし、手入れをしない限り徐々に消滅していくものです。

この愛くるしい草軽電鉄が歴史の中に消滅しないようにするためには少しでも多くの方々にその存在を実感していただき、整備を続けることが保存の最も良い方法だと言えます。

草軽電鉄跡ドライブ探訪の旅(北軽井沢コース)を楽しんでいただいた皆様には是非とも残りの2コースに挑戦していただきたいと思います。それぞれのコースではそれぞれ別の草軽電鉄の表情を感じていただけることと確信しております。

著作 大久保 秀一

校正 宮崎 光男

発行 浅間山ジオパーク推進協議会